

## 実践事例

(郷土) 奥殿小学校 4年

# 綿の栽培を通して、奥殿の歴史を学ぼう

5月～2月(30時間)

## 1 ねらい

奥殿学区で古くから受け継がれている紡績業。製品作りの技術や様子、その歴史について綿の栽培を通して学んでいく。綿を栽培し観察を続けることで、綿の生態を知るとともに、現在の奥殿学区からは想像できない昔の様子を、聞き取り調査をする中でつきとめていきたい。また、学習を進める中で、学区の良さに改めて気づき、郷土への愛着をもった子供たちを育てていきたいと考え、本主題を設定した。

## 2 実践の概要

### (1) 綿の栽培から、綿の生態を調べる

#### ①種まき

5月、ファナビスの稲垣光威さんらにゲストティーチャーとして来校していただいた。去年収穫した綿を持ってきていただき、綿の種まきをした。種のまわりについている綿をきれいに取り、種を蒔いた。



種まきの様子

#### ②綿の観察

種を蒔いてから、2週間ほど経つといくつか芽がでてきた。芽が出て喜んでいる児童がいる一方、芽がひとつも出ずがっかりしている児童もいた。なぜ芽が出てこないのだろうと疑問に思う児童がでてきた。そこで、学区に住む綿に詳しい市川和江さんに綿栽培について教えていただこうと児童に投げかけた。代表者が市川さんに電話でお願いをし、来校していただけることになった。市川さんから種をまくときや大きく育てるためのポイント、芽が出た後の成長の様子を教えていただいた。児童は栽培方法やこれからの生育の様子に見通しが立った。さらに、綿の花の色が変化することを知ったことで、水やりなど世話をすることや観察をする意欲が増した。



市川さんによる綿についての授業の様子

### (2) ガラ紡について調べる

#### ①奥殿学区のガラ紡産業

自分たちが育てている綿。この綿を使った産業が昔、奥殿学区にはたくさんあったことを児童たちが知ると、放課後に家族や地域の人に聞き取り調査に出かけていった。そして、ガラ紡というものが、奥殿で盛んだったことをつきとめる。さらに詳しく調べていくと、自分の家でも昔ガラ紡をしていたという児童がクラスの中に数人いることがわかった。そこで、昔、ガラ紡を営んでいた学区の方に来ていただき、当時の様子を話していただいた。昔は百軒以上の家でガラ紡を営んでいたことや、東北から出稼ぎに奥殿に来ていた人がいたこと、飲み屋やパチンコ店、映画館が学区にあったことなど、現在からは想像できないくらい奥殿学区が栄えていたことがわかった。

#### ②ガラ紡の機械見学

当時の機械が宮石神社に保存されていることが、児童の一人調べからわかったので、

見学にでかけた。動きを見ることはできなかったが、実物の大きさや機械の仕組みや部品など、見学することにより理解できた。当時は郡界川の水流で水車を回し動力にしていたことや、小さな電気モーターを動力にしていたことも、この見学で知ることができた。



ガラ紡見学の様子

### (3) 自分で綿から糸にする

ガラ紡について知っていった児童は、自分で育てた綿を糸にしたいという願いを持つようになった。そこで、もう一度、ファナビスの稲垣さんに来ていただき、綿から糸にする手紡ぎの方法を学ぶ。まず、綿くり機という道具を使って、綿から種を取り除いた。次に唐弓を使って綿をふわふわにほぐし、よりこを作って、糸にしていた。よりこから糸にする時、綿を引っ張り、ねじる。このことを「糸によりをかける」ということをた。よりをかけることにより、切れない強い糸ができると学んだ。



綿くり機を使って種を取り除いている様子



復元されたガラ紡

そのあと、復元されたガラ紡を見せていただき、実際に動く様子を見学した。糸がねじられながら上に引っ張られ、よりがかかっている様子を見学した。手紡ぎと同じように、よりをかけながら糸を作っていることがわかった。そして、手紡ぎよりも数倍速く、楽に糸ができる様子に驚いていた。

### (4) 現在の紡績工場に受け継がれる学区の紡績業

学区に100年以上も昔から紡績業を営んでいる工場がある。昔はガラ紡をしていたが、現在では、ガラ紡とは違う機械を使って、紡績している。今まで学習したガラ紡と現在の機械の違いについて探るため、見学に向かった。まず、糸の原料を見学した。現在では、綿などの植物繊維だけでなく、羊毛などの動物繊維、石油から作られる合成繊維やリサイクルされた繊維もあることがわかった。そして、現在の機械である紡毛紡績機やミュールを見学した。手紡ぎやガラ紡機とは格段にスピードが違う。技術の進歩に児童は驚いていた。しかし、生産工程の詳しい説明を聞くと、手紡ぎやガラ紡と似ている部分があることに気づいていた。綿や羊毛などの原料を「ほぐし」、「よりこ」を作って、「よりをかける」、という仕組みは同じであると学んだ。



工場見学の様子

## 3 実践を振り返って

子供たちは、伝統的な産業であるガラ紡について知ったことにより、学区の新たな一面を見つけ、「奥殿ってすごい」とさらに愛着をもつことができた。特に、自分の家でガラ紡を行っていたとわかった児童は、自分の家のルーツを知ってうれしそうであった。しかし、奥殿の紡績業は衰退の一途をたどっている。昔の繁栄はもうない。奥殿学区は昔のように栄えたほうがいいのか、現在の自然豊かな状態を維持するほうがいいのか、子供たちの考えは分かれていた。